

『口腔内刺激による筋硬度の変化 —ソマニクスオーラルを用いた検証—』

座長 森ノ宮医療大学 保健医療学部 鍼灸学科
鍋田 智之 教授
演者 森ノ宮医療大学 保健医療学部 鍼灸学科
辻丸 泰永 講師
森ノ宮医療大学 保健医療学部 臨床検査学科
脇 英彦 教授



エコーによる筋硬度変化の解説する脇先生 翼突筋刺激の方法を実演する辻丸先生

長期間肩こりを訴える20人を対象に、ソマニクスオーラルを用いて口腔内から外側翼突筋部を刺激。圧痛点の閾値変化と超音波エコーを用い肩上部（僧帽筋部）の筋硬度変化について観察した発表です。

ソマニクスオーラルを用い、口腔内から左右の外側翼突筋部（上顎歯8番奥で接触により痛みを感じる部位）に対して、1分間の接触刺激という方法で行われ介入前後で、肩こりVASが改善したことが示されました。

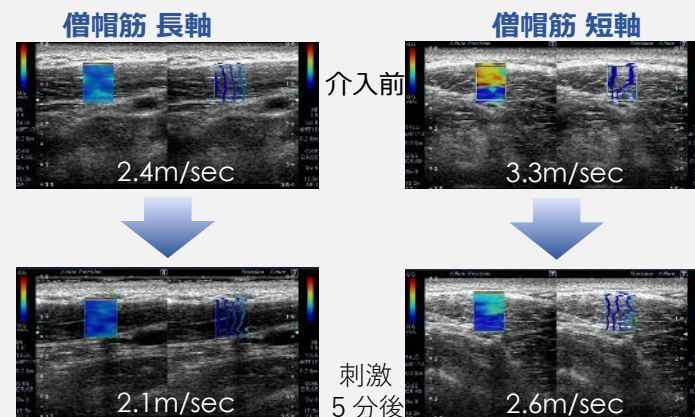
肩こりVASの変化：51.08±23.72 → 40.48±20.20
(ウィルコクソン符号付順位和検定 P=0.0014)



肩こりVASの変化を発表する辻丸先生 翼突筋刺激の可能性を語る鍋田先生

エコー画像（Shear Wave）においては、速度が遅い程、そして色が青色になる程、筋肉が柔らかい状態を示すことが解説されました。
介入前後では、速度の低下とカラーマッピングにて色の変化が観察され、ソマニクスオーラルによる筋硬度の低下が示唆されました。

ソマニクスオーラルを用いた外側翼突筋部刺激前後の僧帽筋Shear Waveの評価



EVIDENCE

SOMANIKIS[®] oral
— ソマニクスオーラル —

ソマニクスオーラルで
外側翼突筋部を1分間刺激！
僧帽筋の硬さが低下しました。

